

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者さん一人ひとりがいまできることを行なってもらえるよう、持っている力を最大限引き出せるよう支援していく。その人らしく暮らしていけるよう支援し、助け合っている。地域の学生が来たりと、実施できている。	今後、中学校以外の小学校・幼稚園などの子供たちもきてくれたら、皆様にもっと喜んでもらえると思う。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職場内に理念を掲げ、常に意識している。管理者の指導の下、各職員に根付いている。会議などで話し、その内容を実践している。会議やケアの相談などでは、常に職員間での理念の共有を行なっている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族にも入居前、入居してからも、機会あるごとに理念をわかりやすい言葉で伝えている。地域の方々の理解の部分では、やや薄いように感じられる。	毎月入居者さんの様子を手紙で伝える。行事や普段の様子を写した写真を同封している。地域とのつながりを増やしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板や近所のスーパーへの買い物など実施している。声の掛け合いはあるが、立ち寄っていただけには至っていない。散歩に出た時、近くの家で庭木を見せていただく。	顔見知りからなじみの関係への発展を図れると良いと思う。ご近所の方が立ち寄りやすい環境づくりをしたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの中学生との交流を深めたり、地域の行事に出かけたりと積極的に行なっている。近くの中学生が来て一緒に過ごしたり、踊りのボランティアの訪問を受けている。周囲の祭りなどに参加させていただいている。中学校のバザーや運動会に行く。近くの農協の催しに出かける。	老人会に参加できることがあれば、入居者にすすめていきたい。自治会の大掃除などに参加していきたい (現在、自治会掃除停止中とのこと)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いの中では、何点かアイデアが出るものの、まだ行なえていない。		路肩や空き地の草むしりや掃除など、入居者さんが出来ることを行って行きたい。 駅のごみ拾いや、掃き掃除等、地域の高齢者会との連携を図り行なって行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は自分や現状を知るのに役立ち、自己改善の目標になっている。 実施により、自己のケアへの取り組みについて振り返ることができる。 外部評価されたものを職員全員が目を通し、把握するようにしている。 評価をふまえ、その後のケアに反映させるよう努力している。		よりよくする為には評価を活かして、出来ていない所の改善に取り組みたいと思う。 評価されたものを元に会議を行い、具体策について話し合う。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて情報の共有をしながら、意見収集をし、より良い木かげ作りを目指している。		回数、参加人数を増やし、積極的に会議を進めて行きたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あまり連携が実感できない。 実施されていないように思う。		連携を密にし、行き来しやすい状況を作る。 事業所や管理職、職員が意見を出し合い、それを元に事業所が市町村と連携していきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で学んでいる。 個人の範囲内であり、認識にも差があるように感じる。		学ぶ機会を積極的に持って行きたい。 外部研修への参加や内部での研修を行い、知識の向上に努めたい。 必要な人への支援をスムーズに出来るようにして行きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為、職員同士のコミュニケーションも大事にし、何でも意見交換できる環境づくりをしている。 虐待防止に努めている。 会議や職員間でケアについて話す機会を通じて、どのような行為が虐待となるのか話している。		関連法についての勉強会を行なう。 外部研修への参加・内部研修の実施。 スタッフ間互いに、その場その場で考え、間違ったことへの指摘など出来るようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>説明等の時間は取れていると思う。契約・解約ともよく話し合いをしている。わかりやすい書類とともに説明を十分に行なっている。見学の段階からわかりやすい説明を心掛けている。</p>	<p>今後も継続して行なっていく。疑問点はすぐに聞いていただき、返答できるような環境づくり。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者さんの意見や苦情にはよく耳を傾けるようにしている。常に入居者さんの言葉に耳を傾けている。まとまった時間をとっての機会はない。日誌やケア会議での話し合いで理解されていると思う。日々の様子から感じ取り、入居者さんから聞く姿勢はとれていると思う。</p>	<p>利用者さんとの何気ない会話の中で、不平不満を傾聴するように心掛ける。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月手紙を出している。入居者さん一人ひとりに担当がつき、サポートしている。手紙・電話などで暮らしぶりを報告している。特に緊急時は電話で連絡を密にとっている。</p>	<p>入居者さんにも手紙を書いていただく。現状の継続。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情や不満を伝える外部の機関および職員名を契約の際に伝えている。家族の意見は出来る限り反映させている。会議に出席していただき、要望を出して頂いている。苦情があれば、すぐ全職員へ通知している。</p>	<p>訪問時などに意見を尋ねる。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者との意見交換はあまりされていないよう感じる。普段から意見交換の場を多く持っている。業務会議や日々の話し合いの中で意見交換をしている。</p>	<p>管理者は職員を理解し、傾聴してくれているが、運営者は理解していないと思う。もっと現場を理解してもらいたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員人数に限度があるため、完全にできているとは言えない。話し合いの時間はあまりとれていない。状況に応じた勤務の調整は柔軟に行なわれている。</p>	<p>短時間でも良いが、フリーの人員確保</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は少ないが離職は防げていない。入居者さんがなじみの職員を多くもてるようユニット間の交流、職員の交代を日常的に行なっている。</p>	<p>離職にいたる理由を根本的に考え、離職を最小限にする努力する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の情報提供と勤務の調整を行なっている。研修機会は設けているが、運営側の意向は伝わっていない。研修・勉強会に参加している。研修の通知はあり、希望した研修への参加ができています。</p>	<p>休日を使い、自費での参加のため、特に報告の義務は無いが、良い知識の共有のためにも、研修不参加スタッフに内容開示、更にホーム内での勉強会で活かして行きたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホームと相互訪問(交換ボランティア)を行なっている。</p>	<p>交流グループホームの数を増やして行きたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>思っていることを話せるような環境作りに努めている。経験談などを話したり、リラックスする様に工夫している。運営者が実施しているかはわからないが、そのような環境である。</p>	<p>今後も続けていきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>実施していないと思う。運営者とコミュニケーションを図る機会をもてていない。</p>	<p>運営者との懇親会を催して行きたい。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>実調や面談時本人と会う機会を作り、ゆっくり話を聞いている。なんでも話しが出来るような環境作りを心掛けています。遠方からの入居の場合は難しいが、大方出来ていると思う。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談時には十分時間を取り、家族の思いをよく聴くようにしている。連絡を密に取ることで、本人への理解や家族の求めることをする。電話時、見学時など機会ごとに対応できていると思う。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談を受けるのは管理者であることが多い為、わからない。ご家族が管理者との会話中など、不安を仰がないように、現場スタッフにて、利用者さんがリラックスできるように、話し合い手になるなど配慮している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な方は入居前に何度か足を運んでもらっている。ご本人が納得し入居できるように、体験入居あり。本人の事を知るため、接する機会を多く取っている。その人なりに慣れていくよう見守っている。家族に週刊などを事前に聴く。本人来所時に他の方と過ごす時間を持ってもらうようにしている。		皆さんに溶け込めるよう、紹介したり、話しかけ、一人にならないように気配りをしていく。周りに馴染めるように職員からの働きかけを密に。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者さんの得意な分野を教わったり、一緒に行って楽しさや喜びを分かち合っている。本人が笑顔で過ごせるよう努力を続け、また本人の能力を活かして出来ることをしていただく。本人のできることはどんどん行なってもらい、職員は感謝の気持ちを伝えている。		人生の先輩であるので、物をたずねるようにし、趣味などはどんどん行なっていただく。菊栽培・干し柿作りなどを教えてもらい、一緒に行なう。出来ることを積極的にしていただき、自信をつけていただく。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にとり、本人の状況を伝えたり、ご家族が参加できるイベントを行い、良い関係が築けるよう努力している。連絡を取り、時には来所して現状を見ていただき、共に支えていく。美容室利用や通院など、協力いただくこともある。		職員と家族とのコミュニケーションをもっと図ってきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族双方と関わる中で、良い関係が築けるようお互いの気持ちを伝える支援をしている。こまめに近況報告。行事予定などを知らせる。間に入り、入居者さんの想いや状態を伝えるよう努めている。		家族との関係が壊れないように連絡や本人との交流をとっていただく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんによっては、あまり支援できていない。七夕祭りや初詣などでなじみの場所に出かけるようにしている。		本人の意欲の強化に繋がるため、実施していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者さんが孤立してしまわないよう、職員が皆を巻き込んで明るい雰囲気作りに努めている。皆さんの輪の中に入るよう声かけを絶えずしている。努めているが防げないこともある。食席などの配慮や掃除・体操など協力したり一体化できることを行なう。		雰囲気作りに努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今のところ、殆どの方が最期の入院時がサービス終了のため、お見舞いに伺ったり、こちらの皆さんの状況を伝えたりぐらいしか出来ていない。		お見舞いに行く。時々様子を尋ねる。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話、エピソードの中で、本人の希望、価値観などを読み取る努力をしている。入居者さんの希望に沿った暮らしが出来よう努めている。本人の意向をじっくり聴く時間が不足しがち。入居前については家族からの情報により把握。後については、日々の会話などよくみとるようにしている。		ゆっくり話せる時間をとり、具体的な希望や思いを話せるような環境をつくる。希望や意向を尊重しながら、集団生活ができるように本人と一緒に過ごす。本人とゆっくり話す時間を増やす。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を元に一人一人と話すことにより把握している。家族からの情報より、把握に努めている。個々の生活歴から把握。		利用者さんがリラックスし、思い出話などをして下される雰囲気作りをし、傾聴する。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々変化する心身状態や有する力については、ケース記録のほか、担当職員からの情報、本人との面談を元に把握している。状態をつかむまで観察し把握する。毎日記録をつけ、本人の様子を観察していく。日々の生活を共にしての観察から把握している。状態変化に各自気を使い、対応している。		個々の状態が把握できたとき、マイナス面をどうしたらプラスに近づけるか話し合う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に会議を行い意見交換をし、それを基に計画作成している。変化があった場合、すぐ職員間で話し合い、介護計画を作成している。会議によるケアプランの見直し。担当者や他職員が共に意見を出し合い、作成されている。		計画作成にあたり、家族の意向が十分反映されるよう意見聴取をより行なって行きたい。家族の会議への出席率があがると良い。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の定期的な見直しと新たな問題に対する計画作成は状況変化に応じて行なっている。ケアマネと相談し、行なっている。会議を行い、それぞれの意見を出し合い見直しをしている。		日々の暮らしの中で、一人一人の様子をみながら、変化があったときには家族と相談しながら計画作成にあたる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録として日々の様子を記録し、その情報をケアプラン見直しに活かしている。 個別日報を毎日記録している。 活かしている。 個別の日記に記入し、職員は目を通している。 記録を残し、情報を共有している。 入居者さんにとってよいと思われることは取り入れ、各自が記録に残したり、今後について		誰が読んでも入居者さんに対応出来るように詳細に記録している。 記録を活かしケアの改善に努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じて個別の対応ができています。無理難題でない限り要望に応じ柔軟に対応している。 活かしているかどうか分からない。		家族への電話、面会に訪れた時要望を聞いたりしていきたい。 状況や要望を詳しく把握し、改善に努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方の協力を得て、フラダンスをしたり、中学生が体験に来て共に過ごすなど地域資源を活用している。あまり協働できていない。 中学生の訪問・ボランティアの訪問あり。		もっといろいろなボランティアなど社会資源などを活用していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他サービスへの見学・連絡・調整等を行っている。 状況に応じて支援している。 支援している。		地域との関わりがあまり強くない為、今後の強化を図っていく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在はあまり図れていない。		各分野を理解・利用し今後やっていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診と以上時の報告、相談等、かかりつけ医と連絡を密にとって支援できている。 実施している。 月1回受診し、医師へはその時々々の現状報告。何か変化があれば家族へすぐ連絡を入れている。 入居時に受診先を選択してもらおうになっている。 医師との関係づくりも行っていると思う。		かかりつけ医休診時の対応を考える。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医が認知症専門医であり、認知症に対する治療も十分行ってもらっている。定期的に受診し、普段の生活で変わった事等相談している。</p>		<p>ありのままの現状(症状)をきちんと伝えるようにする。認知症について医師に話を聴く機会を持ちたい。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職経験もつ職員が必要に応じて相談等行っている。</p>		<p>少しの変化でも相談したい。地域看護職を通さず何かあったらすぐかかりつけ医に連絡している。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院の関係者及び家族と充分連携をとり、退院の調整等行っている。入院中も情報収集を行っている。病院に出向き情報交換する。本人の暮らし、状態について情報を伝達するよう心がけている。管理者が実施している。入院先と連絡をとる。又、入院先に出向き情報を得るようにしている。</p>		<p>退院した後の注意事項などをたずね、安全に快適に暮らせるよう努める。病院に見舞いに行き、安心していただく。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人の状態を家族に細かく伝えながら家族の希望や治療方針を聴き、今後の方向性を確認している。できていないと思う(2名) 家族の意向については入居時に確認。状態変化ごとに意向を再確認。</p>		<p>状況を見て、家族・職員・医師と話し合って行きたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>日々変化する状態を医師に詳しく報告、相談できている。出来ていないと思う。状態の変化については日々情報を共有し、さきのことについても話し合うことあり。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人に関する詳細な記録をつけ、それを伝えていく。</p>		<p>情報の共有により、多くの変化を起こさないように努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常に他の方の目を意識した対応を心掛けている。個室での生活。排泄介助時などは目立たないように努める。実施している。記録用紙は目のつかない場所に。個人記録はフロアではない場所で行う。</p>	<p>居室に入る時は声かけ。言葉や対応には慎重にと、日々気をつけている。本人の自尊心を傷つけないような声かけを徹底。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員が決めてしまうのではなく、常に本人が決められるような声かけ支援をしている。本人の意思を尊重しながら、アドバイスしたり、納得し暮らしやすい様に支援。入居者さんの選択肢を狭めるような声かけを行わない。</p>	<p>無理に押付けるのではなく、自主的に行動できるように支援する。本人の思いを表していただけるよう支援する。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の希望に沿って支援を心掛けている。入居者さんが今までしてきたことを活用してもらい、経験を活かした活動をしていただく。行うことが決まっているわけではなく、その日・その時に物事」</p>	<p>入居者さんの希望にそった暮らしを大事にしたい。したいこと、出来ることを出来るだけ抑制せず、ありのままに暮らしていただく。実施しているが、まだまだ足りない。もっと大事にしていきたい。余暇の時間の充実。時間を有効に使えるようにしていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人・家族等望む形で行っている。起床時の整容。理美容については家族の方にも関わっていただき行っている。</p>	<p>自分で使う日用品を入居者さんが店で選ぶ買い物機を増やす。洋服選び、化粧など入居者さんが望むように努めている。本人の望みを出来るだけ聞き届ける。本人が希望の美容院には行っていない。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々の得意な部分、できる部分を把握し、入居者・職員みんなで協力して準備、片付けできている。盛り付け・食器洗い・食器拭き・米とぎ・料理の手伝いなど出来ることを行っていたり。</p>	<p>食事の献立を皆で決め買出しから入居者さんと共に行う機会を増やす。個人のペースの違いを理解し、それに合わせた対応を行う。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>イベント時は飲酒などもして頂いている。買い物に出た際は、本人の望むものをえらんでいただき、楽しんでいただく。</p>	<p>おやつなど、出来る限り好きなものを提供していきたい。買い物に出る機会を増やしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握するよう努めている。失敗しないような工夫も個別に担当職員が中心となって考えている。入所時オムツだった方もできるだけオムツを使用せず、本人のペースで排泄できるよう支援。		声かけし、まめな排泄誘導を心掛けている。薬に頼らず、できることからすすめていく。個々のパターンの把握。排泄機能を低下させないよう支援していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	何日入ってないかを職員がみて決めてしまっている。個々に入りたい時入浴していただく。入浴の時間帯はある程度決められているが、その中で希望に沿うようにしている。一人でも多くの入居者さんが入浴を楽しみにしてくれるよう努めている。		職員の都合に合わせてしまうことのないように、利用者さん本位を大切にして行きたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝具や冷暖房等一人一人の好みに合わせた対応をしている。寝すぎでない限り、休息したり眠れるようにしている。殆どの方が消灯前には就寝されている。実施している。睡眠状態の把握に努め、安眠できるよう支援している。		生活のメリハリのためナイトケアの充実を図る。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	余暇の時間にカルタやボール遊びなどを行い、笑顔で過ごされている。体操を日課としている。個々になにかしら役割をもっている。掃除の得意な人、入居者さんの得意分野をしていただく。裁縫や片付けなど「生活の中にリハビリあり」との理念のもと、様々なことをしていただいている。		得意分野のことを言っていただき、それを行うことで気晴らしをしていただきたい。入居者さんのできることの模索。個人にあった日常を少しでも作りたいと思うが手一杯になってしまう。もっと工夫したい。一人一人をクローズアップした支援をしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金を所持していない。外出したときは一緒に買い物をする。個人で管理はしていないが、外出時には個別に支援している。		買い物など一人で行きたい時にいけるような支援。小額でもよいので手元にお金があるとよいと思う。日用品を担当が購入することもあり、本人と選ぶ時間を持つようにしたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近所への買い物にはよく出かけている。散歩するようにしている。可能な限り努めているが自立歩行可能な方ばかりになりがち。		一人一人の希望に沿っての外出が日常的に行われるよう努める。時間がゆるす限り戸外にでかけたい。移動介助が必要な方も外出できるように配慮していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車でのドライブ、買い物など外出している。家族とでかけることはあり。個人では実施していない。月に一度、イベントとして外出企画など行っている。		外出の頻度を増やす。月1回実施。もっと家族も巻き込む工夫をしていきたい。会話の中からリサーチし、希望を叶えるよう努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あらかじめ家族の了承を得て、電話をかけたりできるよう支援している。入居者さんが望めば、電話・手紙のやり取りができるようにしている。必要に応じて葉書などの購入、手紙の投函を支援。		手紙を書くことを薦めたい。機会を増やし、本人の感情の抑制を少なくしていく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問はいつでも大歓迎であることを伝え、訪問時も明るい雰囲気に対応している。訪問者が入居者さんとゆっくり話ができるように支援。訪問を快く歓迎している。いつでも気軽に訪問していただけるよう準備している。		明るい雰囲気作り。支援しているが、もっと気軽に来れるよう家族とも協力していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしていない。入居者さんの身体能力を抑制することなく、自由に動ける状態をつくる。取り組んでいる。ベッドは一方は壁についているが三方は開いている。		定期的な研修の実施。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。一人一人の所在を把握し、鍵をかけずとも居場所がわからないようにする。取り組んでいる。日中、玄関を開けており、いつでも隣のユニットに出入りできるようにしている。		施錠をしていないことにより、気配りが必要。入居者さんの感情の変化に気づき、外への意識の向け方に気づく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者さんの様子をさりげなく把握するよう努めている。人数の確認をしたり、声かけ、所在の確認をしている。実施している。		個人のプライバシーを守るよう努めたい。思い込みをなくす。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものは使用后すぐに片付ける。刃物など、生命の危険に関わるものを使用するときは、一層注意深く観察する。その方にとって注意が必要なものは、預かっている。持ち物の把握や一人で過ごされている際の声かけなどにて対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態の把握。薬は管理し、内服する時確認し手渡し飲んだのを確認する。玄関にチャイムを取り付けている。		居室にいるときも、まめに様子を見に行く。個人に合わせた見守りをし、事故を未然にふせぐ。思い込みの防止。徹底した確認。常にリスクの感覚をもって過ごすこと、その時の知識を見に漬ける。定期的な研修。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急の時の対応は、マニュアルを作成し職員間で確認している。新人研修の際、伝えている。		定期的な訓練を行う。勉強会を行う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路図も示されている。		定期的な避難訓練の実施強化。近隣との関係を深めたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族への説明は十分に行い、その上で職員間で出来る限り対応策を工夫している。契約時に説明し、理解が得られている。会議にて家族にも説明。電話連絡は適時行い、その都度状態の報告等行っている。		事故防止に努めている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間のコミュニケーションを十分に行い、情報共有し、変化にいち早く気づく努力をしている。		速やかな対応を心掛ける。小さな変調も見逃さず、軽視しないように心掛ける。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書をケース記録にファイルしておき、常にみられるようにしている。変更があった時も申し送り等で職員全員が把握できるようにしている。服薬時の確認。定期受診の際に変調を医師に報告。薬の説明書を確認している。		服薬の確認の徹底。すべて把握するように努めたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便リズムを把握し、飲み物、必要の応じて服薬を支援している。身体を動かすよう働きかけている。マッサージの実行。体操をしたり、水分摂取を促している。		日課の体操だけでなく、生活動作の中で身体をより動かす働きかけをしていきたい。安易に薬に頼らず、水分や運動などの面からはたらきかけること(2名) 毎日の体操や散歩を実施したい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの支援を行い、口腔内の保清に努めている。		口腔ケアを促す声かけの徹底。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量には十分注意するよう職員間で確認している。いつ、どういう状態で飲みやすいか等、情報の共有を行っている。摂取量の管理。不即時の摂取声かけ。好んで飲むもの等を用意している。		水分・食事とも摂取できるよう工夫している。強要になることなく、本人の健康を阻害しないように支援する。良やバランスは栄養士管理。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染が拡大しないよう対応している。対応方法の共有。手洗い・うがいの実施徹底。マニュアル作成し対応。		定期的な勉強会を行う。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に新鮮な食材で調理したてのものを提供している。調理器具の除菌。配達された食材は使用まで適切な管理を行う。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関をいつもキレイに掃除し、花や観葉植物をおき明るい雰囲気を作っている。多くのものを置かず、キレイに保つ。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、中庭の様子がよく見えるような環境である。畳を使用する・写真を貼るなど工夫している。庭の一角での野菜作り。入居者さんが不快感を感じないように清潔を保つための掃除の徹底。		庭の一角での野菜づくり。入居者さんが不快感を感じることのないように清潔を保つ。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごしていただけるよう配慮している。個人が思い思いの生活を送れるような支援。		ソファの位置など、過ごしやすさの追求をする。入居者同士の関係に気を使い、トラブルに発展しないよう心掛ける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご家族と共になじみのある家具を入れている。愛用されていたものを居室に飾ったり、使われている。個々の好きなものが置いてある。		古い・汚いのでと新しいものを準備されるご家族が多いので、何か一つでもなじみのものを部屋に置ける様おねがいしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者さんの希望を取り入れている。 外気温との差がある居室には、差がないよう調節している。 加湿・室温調節に努めている。 特に入浴時・夜間は室温管理に注意している。		加湿・室温調節に努めている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	余計なものは置かず、手すり・明るい照明など安全に過ごせる環境にしている。		食堂イスを身体状況により変えて行きたい。 車椅子使用の方や身体介護の必要が高い方が多くなった場合、浴室の環境整備。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	毎日の掃除や家事などで工夫している。 余暇はそれぞれ好きなことを行っていたい。 居室入口に表札を貼る。 物には名前を記入、混乱を防ぐため片付ける場所も変えない。		得意なことを手伝ってもらい、ここの生活は楽しいと思っ貰えるように努める。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭の畑で花や野菜を作っている。 中庭のスペースを散歩やボール遊びなどの余暇活動に使用。 花壇・プランターに花が植えられるようにしている。 個人用の花壇あり。 食卓に入居者さんの収穫した野菜での料理がのり、喜んで味をかみしめている。		種選び・購入から、積極的に利用者さんにやっていただくよう努める。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	3	ほぼ全ての利用者の
		3	利用者の2/3くらいの
		2	利用者の1/3くらいの
		0	ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	6	毎日ある
		2	数日に1回程度ある
		0	たまにある
		0	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	7	ほぼ全ての利用者が
		0	利用者の2/3くらいが
		1	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	5	ほぼ全ての利用者が
		3	利用者の2/3くらいが
		0	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	3	ほぼ全ての利用者が
		3	利用者の2/3くらいが
		2	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	5	ほぼ全ての利用者が
		3	利用者の2/3くらいが
		0	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	6	ほぼ全ての利用者が
		1	利用者の2/3くらいが
		1	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	2	ほぼ全ての家族と
		4	家族の2/3くらいと
		1	家族の1/3くらいと
		0	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1	ほぼ毎日のように
		1	数日に1回程度
		6	たまに
		0	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	0	大いに増えている
		2	少しずつ増えている
		5	あまり増えていない
		0	全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	4	ほぼ全ての職員が
		4	職員の2/3くらいが
		0	職員の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	2	ほぼ全ての利用者が
		5	利用者の2/3くらいが
		1	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	2	ほぼ全ての家族等が
		5	家族等の2/3くらいが
		1	家族等の1/3くらいが
		0	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常生活の中で、共に身体を動かし、笑顔を絶やすことなく入居者様が安心して毎日を過ごされるよう、日々努力していると思う。入居者さんが寝たきりにならないよう毎朝の大掃除や、テレビ体操などを実施し、生活リハビリに力を入れ、取り組んでいる。職員の間関係はよく、いろいろと働きやすくしてくれている管理者に感謝している。勤務が厳しくても続けているのはそこだと思います。その良い空気は来訪者に伝わっていると思う。ただ、金銭面の指す差から職員の数が増えず、安定もせず、今いる職員で力を合わせ入居者さんと一日一日を笑顔で過ごそう、楽しいことを提供しようと考えてもできない時もあり、自分達が至らない所もあるが残念に思う。管理者の方針である生活リハを毎日実施していること。「笑うかどには福来る」を合言葉に、スタッフはもちろん利用者さんが笑顔でいられるように努力している。